



1 SDGs (持続可能な開発目標) について

外務省がピコ太郎をSDGsプロモーターとして普及啓発したことが話題になりました。

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月、国連193の加盟国の全会一致で採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』の中核となる世界共通の行動目標です。

その理念は、「誰ひとり取り残さない (No one will be left behind)」というスローガンに表れ、持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されています。そのうちの目標5は、「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワメントを行う」が挙げられています。

途上国における貧困の解消だけでなく、経済がグローバル化する中、日本でも、格差社会の歪みのため、取り残された人の貧困、教育や雇用対策に、積極的に取り組む必要があります。

昨年12月には「関西SDGsプラットフォーム」が設立され、関西を中心とした市民、企業、大学、自治体が連携を強め、持続可能な社会の実現を推進していくことが宣言されました。

SDGsの詳細は、国際連合広報センターホームページをご覧ください。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

2 「#MeToo (私も)」をご存知ですか？

セクハラ、レイプ、ナンパ。ちょっとした、“からかい”や“冗談”と片付けられてしまいがちですが、オフィス、教室、家庭などで、苦しい思いをした女性たちは声を出せずにいます。「#MeToo (私も)」は、過去に受けたセクハラや暴力をシェアし、問題の深刻さを告発する動きで、10年前にある黒人女性の“勇気”からはじまりました。ハリウッドの大物プロデューサーによるセクハラや暴行が明らかになり性暴力の問題に注目が集まる中、ある俳優がTwitterで、「過去に性暴力を受けた経験のある人は、このハッシュタグ「#MeToo」で経験を共有しよう」と呼びかけて大変話題になっています。「#MeToo」は被害者から被害者へのキャッチフレーズです。「あなたはひとりじゃない、傷が癒される日は必ずくる」と伝えます。

最近では、女性たちの「#MeToo」の広がりを受けて、男性たちもハッシュタグ「#How I Will Change (私はどう変わるのか)」で、“知り合いの女性がセクハラや性的暴行を受けてしまった時に、僕が加害者を知っていたら、必ず通報する！”などと声をあげはじめています。

3 ジェンダーギャップ指数114位、過去最低を更新

「世界経済フォーラム」は男女格差の度合いを示す「ジェンダーギャップ指数」の報告書(2017年版)を発表しました。日本は世界144か国中114位となり、過去最低だった前年の111位からさらに後退しました。

ジェンダー格差指数は、①経済活動への参加と機会(経済参画)、②政治への参加(政治参画)、③教育の到達度(教育)、④健康と生存率(健康)の4分野について、14項目を数値化して評価され、男女平等の度合いを指数化して総合順位を決めます。

